

令和7年度登録手話通訳者認定試験 手話通訳技能試験問題
手話の読取り（口頭）

「シニア」

最近では、歳をとっても仕事をしているシニアの方が増えてきており、先日驚いたことがありました。7月に仕事で大阪へ行くため、新横浜駅始発の電車に乗る予定で5時15分に駅に到着しました。まだ発車時刻まで時間があったので休憩しようと思ったのですが、まだどのお店も閉まっていたので少し離れたハンバーガーショップは開いていたので入店しました。コーヒーを注文すると、まだドリップ中なので席で待つよう言われました。しばらく待つと、年配の女性がコーヒーを持ってきてくれました。笑顔でコーヒーを置いた後は、食べたものを置くスペースを片付けたり、汚れたところを拭いたり、ゴミが溜まっていないか確認しており、ベテラン主婦ならではの仕事ぶりに見入ってしまいました。私も75歳になっても、この女性のように生き生きと働いていたいものです。早朝から働くなんてパワフルなシニアですね。

令和7年度登録手話通訳者認定試験 手話通訳技能試験問題
手話の読取り（書取り）

「デフリンピック」

私は、大のスポーツ好きです。昨年11月に、日本で初めてデフリンピックが開催されました。福島ではサッカー、東京では水泳と空手、バレーボールを観戦しました。また、閉会式の観覧チケットを運よく手に入れ見に行ったのですが、盛大に盛り上がりとても良かったです。観戦して気づいたことが2つあります。1つは、試合会場でのことです。多くの選手やコーチたちが人工内耳を装着し、手話ではなく音声でコミュニケーション取っていて、とても驚きました。もう1つは、最多メダルを獲得した国がウクライナだったことです。ウクライナは、戦争が勃発しており混乱を極めています。そんななか、どこで練習をしているのでしょうか。なぜ強いのかも分かりませんが、とにかく賞賛に値する結果を残したと思います。このデフリンピックを契機に、手話を含むさまざまなコミュニケーションの理解が広まり、障害の有無に関わらず、すべての人が楽しく関わり、暮らせる共生社会が実現できることを願っています。